

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	東京工業大学	申請大学長名	三島 良直
申請類型	オールラウンド型	プログラム責任者名	丸山 俊夫
整理番号	G01	プログラムコーディネーター名	佐藤 勲
プログラム名	グローバルリーダー教育院		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

広く政財産官学界にわたりグローバル社会を牽引していくトップリーダー（グローバルリーダー）には、国・地域、人種、宗教等の違いを越えてものごとの本質を見抜き、解決すべき課題を抽出し、自らの専門領域の知識・能力だけではなく、他の領域に知見を有する他者の力を幅広く適切に活用して、課題解決のための方策を考案し、それを社会に合理的に説明した上で実行に移すことができる能力が必要である。このような能力を有する人材を養成するため、本事業では、以下の諸点に改革を行う。

- ・ グローバルリーダーに向けた学生のキャリア意識の涵養：将来、自身が、様々な文化・分野が共存するグローバル社会を牽引していくトップリーダーになりたいという意欲を持った者のみを選抜し、実社会の現役リーダーとの接点を豊富に用意してキャリア意識の強化を図ると共に、それぞれの志向に合致した活躍の分野を考えさせ、それに合わせた能力の涵養の機会を提供する。
- ・ グローバルリーダーたる能力の養成のための仕組み：「俯瞰力」「コミュニケーション力」「行動力」「創造性」といったいわゆる「人間力」の養成には、コースワークなどの知識の習得を目的とした従来の大学院教育とは異なる方法と仕組みが必要である。こうした能力を、それぞれの学生が描くキャリアパスに合わせて、テーラーメイドに涵養する仕組みを構築し、グローバルリーダーたる実践的能力を身につけさせる。
- ・ 文理の枠を越えた指導体制の構築と学生の切磋琢磨の環境の強化：グローバルリーダーには、理工学分野のリーダー以上に、文理の枠を越えた幅広い俯瞰力が求められる。こうした能力を養成するため、国内外の実社会のリーダーとの接点を拡充し、実社会の知見を踏まえた俯瞰力を養うと共に、一橋大学との連携によって、指導体制や学生が切磋琢磨する環境の多様性を強化する。
- ・ 専門能力の養成と両立しうる仕組みの構築と学生支援：理工学分野における知識・能力の獲得と人間力の養成という異なる方法による教育体系を両立させるため、修士・博士後期課程を連続した学修期間と位置付け、専門領域における論文研究と人間力涵養の修練とを、学生自身の時間管理の下で自由に組み合わせることができる仕組みを構築する。また、授業料免除、奨励金・研究費給付等によって経済的側面からも支援を行い、本事業での修練に集中させる。

2. プログラムの進捗状況

本学位プログラムの設置にかかる学内規則等の整備、最小規模での運営組織・支援組織の構築を平成23年度前半に終え、学生募集ならびに道場導入教育を既に開始していることから、本年度は一橋大学国際企業戦略研究科（ICS）との連携教育体制・環境の整備を行って、本学位プログラムの教育体系を文理の壁を越えたものに発展深化させると共に、支援組織の充実と本学位プログラムの目指すところの社会への浸透を目的として事業を実施した。すなわち、

- ① 学位プログラムにおいて養成する俯瞰力の文理融合を強化するため、一橋大学ICSと連携して、一橋大学神田キャンパスにおいて人文社会系道場の開設準備を行うと共に、同道場担当の道場主を雇用した。
- ② 本学大岡山・すずかけ台キャンパスと一橋大学神田キャンパスにまたがって道場教育を実施するため、バーチャル道場システムを導入した。
- ③ 本学と一橋大学の教員が連携を密にして教育に当たるため、遠隔会議システムを導入すると共に、プログラム担当者のFD合宿、国内外教育調査等を実施した。
- ④ 道場教育を支援する特任教員を雇用し、道場内の切磋琢磨、フィールドワークなどを通して人間力養成に当たった。
- ⑤ 博士後期課程に進学し中間評価に合格した学生1名に対して実施したオフキャンパス教育の評価を実施すると共に、オフキャンパス教育に臨む学生に対して事前指導を行った。
- ⑥ 所属学生に対して、奨励金等の経済的支援を行い、本学位プログラムにおける修練に集中させると共に、研究支援費・研修支援費の支援、本教育院図書管理システムの整備等を行って学生の主体的能力養成を図った。
- ⑦ 学生のキャリア意識の涵養、オフキャンパス教育の派遣先とのマッチング等のため、メンターを1名雇用すると共に、さらに1名のメンターならびにオフキャンパス教育コーディネーター・キャリアアドバイザー各1名を選考した。
- ⑧ 本学位プログラムの導入段階の教育科目である「人間力基礎」の内容を充実するため、担当支援員を採用した。
- ⑨ 修了生のキャリアパスの確保を確実にするため、本学同窓組織である蔵前工業会との連携を強めた。
- ⑩ 本事業の運営支援組織を強化するため、事務員を3名雇用すると共に、事務室連携システムの導入等、グローバルリーダー教育院事務室の整備を実施した。
- ⑪ 本学位プログラムの目指すところ、特に文理融合による人材養成についての政財産官学界の認識と理解の浸透を図るため、アントレプレナーシップに関するシンポジウムを一橋大学ICSの企画で開催すると共に、本学位プログラムの広報活動の推進及び広報資料等を充実させた。
- ⑫ 平成23・24年度において博士課程教育リーディングプログラムに採択された全44プログラムの意義等を広く社会に発信し、各プログラムの状況や対象学生の意識を高める事を目的とした、博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2012を実施した。